

謹賀新年

日本工業大学

NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY

通信

第119号

編集・発行



日本工業大学

広報課

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1

☎(0480) 34-4111 (代)

http://www.nit.ac.jp

平成15年(2003年)1月1日発行

年頭の辞

小柴昌俊博士と田中耕一氏のノーベル賞受賞は3年連続の快挙でした。総合科学技術会議の数値目標「50年間に30人のノーベル賞を出す」にまた一歩近づいたことを、お祝い申し上げます。ものづくり技術関連での連続受賞は工学部の学生にとってこの上ない刺激となりました。一方、大学を囲む社会情勢はますます厳しく、理工系の学部卒業生の就職先の

評価報告書の作成、入学生の学力変化に対応するカリキュラムの作成です。ISOの認証取得作業は学内の教職員にとつて30余年前の大学紛争の時と同様の効果があったのではないかと感じています。日頃、交流の少ない他部門の教職員が同席する機会が増え、遠慮なく意見を述べ合い協力する雰囲気は生まれました。内部環境監査員制度が導

共同研究として、自然力を利用した水質改善講義室の温熱環境実測と改善策、食品廃棄物から製造したバイオ燃料で走行するエコカーの製作を予算化しました。これらの共同研究が持続可能な技術を考える機会となることを念願しています。

自己点検評価についても、ISO認証取得のための学習の効果が現われ、自己満足は駄目、エヴィデンス(証拠)を示せという発言が随所で出ました。教育成果の実証は困難な場合が多いことを痛感した次第です。

カリキュラムの見直し過程では「新入生の学ぶ力を育てる授業改善シンポジウム」を開学以来はじめて実施。英語、数学及びものづくり教育について、近隣の高校の先生方にも討論に参加頂いて、改善策をまとめました。高校時代に技術の科目を履修した工業高校出身者が大学の講義になじみ易いように、技術専門科目の中で数学、英語等の基礎科目を学習する専門と基礎の融合方式を開発したのも改善策の一つです。

中学校・高等学校・大学一貫の工業教育を目指す本学園は「ものに学べ」を学是とし、実験実習系の授業を柱として、ものに触れ、ものをつくる教育を重視し、学生が低学年から自らの目標や研究テーマを探して実践する、創造性開発のための個別教育のカリキュラム体系を目指しています。企業出身の教員が多いのは実学の大学の特徴です。今後とも、皆様の変わらぬご支援を願って年頭の挨拶いたします。

本学の教育改革



学長 敬
神馬 敬

首位が製造業からサービス業(ソフトウェア産業なども含む業種分類)に移って、今後、大学の理工系教育の内容を見直す必要があると報道されています。

本学ではこの2年間に3つのプロジェクトを実施して、教育体制の見直しを進めて参りました。ISO14001(環境マネジメントシステム国際規格)の認証取得、自己点検

入られて、各部門、各学科内の改善提案が公の場で議論されるようになったことは、学内の風通しを良くし、自己点検評価とカリキュラムの見直し作業を促進させました。

学生自治会の中に環境推進委員会が設けられて、独自の環境方針が制定され、学生主体の環境改善運動が実施されたのは、本学の環境推進運動の特徴です。学生と教職員の環境

共同研究として、自然力を利用した水質改善講義室の温熱環境実測と改善策、食品廃棄物から製造したバイオ燃料で走行するエコカーの製作を予算化しました。これらの共同研究が持続可能な技術を考える機会となることを念願しています。

学生のISO14001に対する取り組み

学生自治会の枠を越えた活動を目指して

第34代中央執行委員会委員長

建築学科4年 四釜正明(米沢工業高校出身)



新旧幹部が力を合わせて実施した防災訓練

新年明けましておめでとうございます。『光陰矢の如し』という言葉がありますが、私が日本



学生環境推進委員が進んでキャンパスの清掃を実施

『何事にも挑戦』を決意した入学時 思い起こせば、4年前の4月、私は新入生として、

工業大学に入学してから早くも4年もの月日が経とうとしていました。卒業を目前に控え、私と同じように卒業研究に励んでいる方も多いのではないのでしょうか。様々な歓喜や苦勞を体験し、その中から様々なことを学ばずにはいられないと思います。

中央執行委員会と学生環境推進委員会の委員長として過ごした貴重な一年 中でも中央執行委員会委

とても新鮮な気持ちでこの日本工業大学の入学式に出席しました。私は入学当初『大生生活』に『社会に出るまでの準備期間』であると考えていました。そのため『大学では今までの経験の無に関わらず何事にも挑戦していこう』と決心しました。これまでの大生生活を振り返ってみると、この初心を忘れることなく何事にも挑戦してきた結果として様々な歓喜や苦勞を体験し、その中から様々なことを学ばずにはいられないと思います。

第6回 技術教育国際フォーラム開催

主催：技術教育国際フォーラム協議会

(代表・学校法人日本工業大学理事長・大川陽康)

感性と教養

日時：平成15年2月11日(祝日) 13:30~17:00

場所：有楽町朝日ホール(有楽町マリオン11階)

第一部【基調講演】「感性は教養を高めるか」

講師：河合 隼雄先生

第二部【対談】「日本人の感性と教養をめぐって」

* 河合隼雄先生(文化庁長官・京都大学名誉教授)

* 平山郁夫先生(東京芸術大学学長・日本画家)

お問い合わせ先：技術教育国際フォーラム協議会事務局

(日本工業大学 工業教育研究所内 木村寛治)

電話：(0480)33-7512(直) FAX：(0480)33-7524(専)

・中央執行委員会委員長「建築学科3年・森下泰廉(東工大附属出身)」
・体育会会長「情報工学科3年・山口裕隆(久喜工業出身)」
・文化団体連合会会長「情報工学科3年・渡邊勝郎(東京工業出身)」
・大学祭実行委員会委員長「電気電子工学科2年・吉田淳二(新座総合技術出身)」
・体育祭実行委員会委員長「建築学科3年・西山純子(和洋女子出身)」
・卒業アルバム委員会委員長「建築学科3年・加藤歩(宮澤高校出身)」
・学生生活向上委員会委員長「情報工学科3年・小山剛(清陵情報出身)」
・学生環境推進委員会委員長「中央執行委員会委員長・森下が兼務しており、森下委員長が率いる新体制の下で活動しています。

新幹部の今後の活動への支援を期待
旧幹部一同から新幹部へのお祝いとしては、これからISO14001について学生自身が理解出来る環境を創っていく、環境推進活動に対し、より多くの学生に興味を抱いてもらえるよう活動して欲しいというこです。最近の環境推進活動としては、昨年の11月に旧幹部と新幹部を中心として防災訓練を実施しました。内容は消防署の方から来て頂いて指導してもらいながら実際に消火器と放水を行うといったことでしたが、これは約50人の学生が参加し、大成功を収めることができました。さらに12月には新体制で新幹部を中心とし救命訓練を実施しました。防災訓練や救命訓練は今までは無かった活動でしたが救命訓練も防災訓練同様に約50人の学生が参加し、大成功を収めることができました。今後も様々な活動を行っていき、学生自治会の枠を越えて環境推進活動を行って欲しいと思っています。

最後になりましたが、私が委員長を務めていた1年間、本当に多くの皆さんに助けられました。お世話になった方々には、心から厚くお礼申し上げます。現在は新委員長に学生自治会を引き継いだ訳ですが、皆さんの協力がなければ自治会の発展は有り得ません。今後ともご支援、ご協力の程、宜しく願います。

年頭に当たり、本学の現状と近未来の課題について私の考え方を述べておきます。ご承知のように18歳人口の減少により大学には『冬の時代』が到来したといわれ、進学希望者は全て大学へ入学可能という状態にもなっています。そういう時代であればこそ、私は学生諸君に「大学で何を学ぶのか」をしっかりと考えてほしいと思います。目的意識の薄い学生は、カリキュラムの進行についていけず、休学や退学ということにもなってしまうのです。本学でそういう事態が極力生じないよう私は学生諸君に年頭に当たり改めて「学

●年頭所感●
専門職大学院の設置へ
―教職員一丸となり未来を拓こう―



理事長
大川 陽康

ぶ決意」を確認してほしいと希望します。
ところで大学にとつても一つ期待されているのが生涯学習、生涯教育の場を提供することだと私は考えています。卒業生を含めた実務経験を有する社会人を対象とする新しい大学院において、技術革新や経済のグローバル化にも対応できる実践的教育を行い、専門的、国際的な職業人育成を目指したいと考えているのです。文部科学省でも「国家資格など職業資格に結びつく分野」や「社会的に高度な専門的職業能力が求められる分野」について「専門職大学院」を2004年

を目処に創設したいというております。そこで私としてはこの文部科学省の計画と並行して本学でも専門職大学院を設置したいと考え、計画を進めております。本学にいわれの深い神田神保町にすでに土地を取得し、専門職大学院の設置を検討しております。
専門職大学院は、本学の『建学の精神』を拡大する形で設置できるのではないかと私は考えています。建学の精神の最初には次のように記されています。「真理の探究に努めるとともに、工学理論を現場の技術に直結しうる能力をもつ高級科学技術者を育成する」。これこ

「スウェーデンの環境政策と産業の動向」と題する特別講演が、2002年10月18日(金)に行われた。講演者はスウェーデン・イエテボリ大学準教授のサン・チュール・パーク博士である。博士は韓国生まれで、ドイツで学位を取得後、2年間、日本工業大学に特別研究員として滞在、竹内淳彦教授のもとで工業発展と環境をめぐる課題について活発な研究活動を行った。スウェーデンに帰国後、二つの学位を取得し準教授に就任。今回は久々の来日である。講演は英語で行われ、竹内教授が同時通訳をしながら進めた。
講演はまず今日の環境をめぐるグローバルな動向とEUの動向についてふれ、それをとくにスウェーデンの環境政策と産業動向についての紹介がなされた。環境を巡るグローバルな議論は1980年代におこり、80年代後半から活発化した。その焦点は環境保全と経済の持続的発展であつ

た。スウェーデンは早くからその課題に取り組んでおり、世界のトップランナーとして認識されている。人口約85万人のスウェーデンにおける環境政策は、国と地方との役割分担が明確になされている。国は専ら対外的な対応と環境に対する指針を示し、実施レベルでは21の州と289

の市町村の地方に多くの権限を与えている。南北に細長い国であるため、北部と南部では気候や地形など地域条件が異なり、環境政策もそれに対応して実施されなければならない。地方への権力分散が有効かつ不可欠である。
国レベルでは特に環境保全(EP A)の役割が重要である。EP Aは職員約500人を擁し、環境問題に全責任を持つ世界最初の国家機関として1967年に設立された。これまでに、対外的にはOECD会議や国連人間環境会議においていくつもの提言を行い、国内的には環境規制の目標設定などを行ってきた。特に

1999年に発表した新たな環境規制は500項目にものぼる環境の質的基準を示しており、世界で最も厳しく先進的な政策として注目されている。
スウェーデンでは産業界や行政だけでなく、環境保護団体なども交えた議論のなかで、環境に対する具体的な行動をおこしている。例えば、スウェーデンは国民投票により原子力発電の閉鎖を決定した。しかし、風力や水力などの代替エネルギーだけでは国の電力需要を賄うことができず、閉鎖は実現されずにいる。
スウェーデンを代表する企業であるボルボではゼロエミッションに膨大な投資をしており、エリクソンでは世界130工場ですウェーデンの環境基準を適用している。交通に関しては電気自動車の採用が進んでおり、ストックホルムやイエテボリといった主要都市に

は、そのための充電システムが充実している。また、天然ガスを使用したバスが全国的に普及している。
欧州ではEU(欧州連合)が拡大化するなかで、環境に対する対応は各国対応から全欧州規模で対応するようになった。時には広域的な決定が各国の規制値を上回ることもあり、そのなかでスウェーデンは指導的立場にあり、一つのモデルを示している国である。厳しい環境規制とその実践例、ローカルとグローバルなレベルでの政策的対応の必要性などEUの基準ともなっている。
21世紀の地域のあり方は、環境と産業の発展が両輪であり、二つの両立と調和が課題となっている。そういう意味で、今回のパーク博士の講演は日本の環境共

にのり出している科技园は企業誘致に力を入れている。光バレー、インキュベータ、工業団地は一体となつていくように、中国内陸の開発に大学がいよいよ乗り出していることが分かった。本学ではこれほど大胆に行けるか、彼我の規模と国営

環境特別講演
「スウェーデンの環境政策と産業の動向」
サン・チュール・パーク博士



数4万、院生1万の総合大学となった。樊明武学長は先年本学を訪問され、王秉副校長、李昊国際交流処長も同様に旧知の仲であり、大歓迎を受けた。通訳に本

学機械工学専攻出身の莫健華教授にもお世話いただいた。今回は、ごく簡単に学内の案内を受けたがメディア研究部門はMIT(留學)した王副学長の専門である。大学の全貌が細かく入力されておき、鳥瞰から建屋内部への進入までコンピューター操作で行える様子をデモしていただいた。1万人が入る新教室棟は近代的で明るい造りである。当日は、北京からの外部点検を受けている最中であるとのこと学長は多忙の中での応接

か否かを考えるとちゅうちよせざるを得ない程の大規模計画である。中国と我が国との関係を考えると、本学と華中科技大学とで共同のベンチャー事業の立ち上げを真剣に検討する必要があるだろう。華中科技大学が前面に出て、既に光ファイバーなどの大規模な生産が始まっており、堅実経営を目指しているようだ。

日本からの進出企業
上海では浦東開発区に最初に進出した東洋電機(株)を訪ね小出会長、小川社長などから事業展開の様子を伺った。本会の福田秋秀副会長が小出会長と旧知の仲でもあり、上海市長が三度も足を運んだという模範企業である。ホンダの関係部品を世界130国に輸出しているそうである。

最後に訪ねたみずほ銀行赤松清茂上海支店長の話は興味深いものがあつた。台湾から50万人が上海地区にきているということも驚きであるが、同支店が10人の募集を行ったところ1000人が応募した。うち500人は英語でも区別がつけられない程優秀で、面接に至る方法に苦慮したそうである。結局は女子従業員を取り、銀行員だから顔立ちの良い者を採用したという。考えさせられるのは中国では極めて優秀な人材をこのように探ることが出来るということである。中国進出企業が増える理由の一つなのだろうか?

—NITEC産学交流会10月23~27日—
武漢・上海視察行

教務部長 廣瀬 治男

半年行かないと全く変わってしまうという中国を3年ぶりに訪問した。上海は、3年前に現地に進出している企業を浦東(フートン)区の松江(ソンジャン)に訪ねたが、今回は10月23日から5日間の武漢・上海視察というNITEC埼玉産学交流会(長谷川勉会長)の企画に理事長推薦で本学から小生と柳澤教授、栗本教務課長が参加した。19年に亘る交流がある華中科技大学のある武漢も変わったから是非訪ねてくださいたいと同大学から見えている黄一夫先生の推薦もある。
激変する中国
伝えられるように、確かに最初に着いた浦東国際空港から国内便の虹橋空港までの道路は、3年前に比べると悠々として車の渋滞は殆ど見られない。モノレールの建設が進んでいる。浦東から旧上海地区への橋が大型トラックで込み合う程度である。出発前に3年前は空港から市内へ入るのに3時間もかかって大変だと聞いていた事が恥かしい。

知ったかぶりは禁物の中国なのであつた。
武漢へは午後4時発の中国南方航空で1時間余の移動。空港から武漢市内への道路はナトリウムランプで煌々としている。電力不足で、質の悪い電気を嘆いていたのはどうなったのだろうか。さらに、宿泊した漢口のホテルが一流であるのに感心したが、食事も東京やシンガポールあるいはバンコックでのもので変わらな



華中科技大学のキャンパスを見学する廣瀬教務部長、栗本教務課長(2人おいて) 柳澤教授

い。朝食のバイキングでは、中華ばかりでなく洋食は勿論、和食もある。
華中科技大学と光バレー
2日目は華中科技大学を訪問した。数4万、院生1万の総合大学となった。樊明武学長は先年本学を訪問され、王秉副校長、李昊国際交流処長も同様に旧知の仲であり、大歓迎を受けた。通訳に本

学機械工学専攻出身の莫健華教授にもお世話いただいた。今回は、ごく簡単に学内の案内を受けたがメディア研究部門はMIT(留學)した王副学長の専門である。大学の全貌が細かく入力されておき、鳥瞰から建屋内部への進入までコンピューター操作で行える様子をデモしていただいた。1万人が入る新教室棟は近代的で明るい造りである。当日は、北京からの外部点検を受けている最中であるとのこと学長は多忙の中での応接

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程
●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻
本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集！(日本工業大学大学院 社会人特別選抜)

◆平成15年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	平成15年2月8~18日	2月25日	書類選考・面接	3月5日	3月12日

願書のご請求およびお問い合わせ先：教務部教務課 大学院入試係 TEL0480-33-7507 (直通)

願書のご請求およびお問い合わせ先
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学教務部 入試室
TEL0120-250-267 (フリーダイヤル) 0480-33-7676 (直通)
URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

日本工業大学 工学部
●機械工学科 ●電気電子工学科 ●建築学科 ●システム工学科 ●情報工学科

■日本工業大学 平成15年度入試日程

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
一般入試	1月10日～2月5日	2月12日	全学科	2月20日	2月28日
		2月13日	全学科		
		2月14日	全学科		
		受験日自由選択			
社会人入 試	1月10日～1月22日	2月14日	小論文及び面接	2月20日	2月28日
書類審査による第1次試験の合格者のみ受験可能。第1次試験の合格発表は1月25日					
AO入試 (第3期)	2月20日～2月28日	3月5日	面談、課題への取り組み	3月12日	3月19日

新年明けましておめでとうございます。
この度、第35代中央執行委員会委員長に就任しました森下泰康です。
時が経つのはとても早く、私がこの日本工業大学に入學して3年もの月日が経とうとしています。振り返ってみますとこの3年間、中央執行委員会に入っていた



大学と学生と学生自治会との 関係をより良いものに築いていきたい

学生自治会中央執行委員会委員長就任あいさつ

建築学科3年 森下 泰康

お陰で大きなことを成し遂げたあとの喜びや達成感、驚くような忙しさなど様々な体験ができたと思います。今はその中で喜びや苦勞を共にしてきた学生自治会の仲間とこれから1年間がんばっていきましょうという新たな決意とこれからどうなるのか先が見えない不安、そして色々な事をやってみようという希望が入り混じった、いわば入学当初のような気持ちです。私はこの大学で2度入学式をしてしまいました。
現在、中央執行委員会では成人式記念イベントの企画

第34回若杉祭が11月2日から3日間わたって開催されました。今年のテーマは「Dream Stage Concept」で、「既成概念を壊す」という意味。大学祭実行委員会・星義 委員長によれば、テーマの意味するところは、同じことを繰り返す普通の生活を、若杉祭において取り払うことにより、今まで見えなかった自分自身の発見や新しい事への挑戦を行ない、自分の新しい一面を築いてほしい」ということだそう。初日には、「THE☆CANYON」と下川みくにのライブが行われ、体育館は八百人の熱気で興奮の渦

第34回若杉祭開催される

11月2日・3日・4日 盛り沢山の行事で大盛況

も出席され、会場では教職員との再会を喜びあう卒業生や、旧友たちとの再会に話が弾む回が初めてである。さらに、この日は後援会福島県支部の会員有志が、学園祭と学内見学を兼ねて来訪した。
本年の若杉祭は天候に恵まれ、4千人余りが入場し、大変賑わいを見せた。
(学生課)

と書いています。自分しか出来ない、自分になら出来ることがあると信じてこれからの何事にも精一杯の努力と挑戦をしていきたいと思っています。
最後になりますが、学生自治会が皆様の協力なしに活動していくのは大変難しいのだと委員長になって改めて感じております。どこまで貢献できるかわかりませんが少しでも学生にとって過ごしやすいい、楽しい学校を創っていききたいと思っております。今後ともご理解ご支援の程宜しくお願い致します。

最近ではキャンパス内を歩いても女子学生が多くなったなあ、という印象を受ける。平成14年11月1日現在、日本工業大学で女子学生の占める割合は全体の35パーセント、200名の女子学生が日工大で学んでいる。そんな中、このほど、初めて女子学生の卒業アルバム委員会委員長が生まれたのである。



加藤 歩
(建築学科3年)

誕生！初めての女子 卒業アルバム委員会委員長

加藤さんは京都府宮津市。彼女の出身は京都府宮津市。目の前は日本海で、非常に海が綺麗なところである。海が好きで、海がおりなす豊かな表情をカメラに収めるのが好きだった。写真に興味があった彼女は、大学に入ると、現在も卒業委員として写真撮影を続けている。化「のためにかなり尽力して、男子のように、自分が卒業アルバムを仕切っている。『オールカラー』の実現となつたのである。そんな記念すべき年に委員長に就任した彼女は、「根本前委員長の努力を無駄にしないために、最後の印刷だけ。まさに、全て手作りのものである。編集・構成費など少しでも費用削減して、その分を自分達のスキルアップに役立てようとしている。年に2回は、卒業委員一人ひとりがより高いレベルの写真を撮ろう」ということで、「集合写真時の中心の置き方」「ジャケットスピード」としほりの関係」などの講習を受けているのだ。1年間に撮影するのは、フィルムにして4000枚、枚数にすると14000枚。その写真の中からより良い写真を選び出す。1ページに使用される写真はたったの10枚。卒業アルバムでも500枚だ。学内で行われる数々のイベントの写真を撮影する。入学式・卒業式・学園祭・体育祭。また、四季折々のキャンパス風景なども同様である。簡単なように思えるが、かなり大変な作業だ。シャッターチャンスというものは、そう沢山あるものではない。だから失敗も許されない。そのため卒業委員一人ひとりのレベルアップが必要となるのだ。
4年間の思い出が、ぎっしり詰まった一冊。
(博)



ホームカミングデーには、なつかしい顔ぶれが集った。全員集合で記念写真(於: スチューデントセンター)

全国から153チームが出場

スターリングテクノロジー開催

今年も11月8日(土)本学で開催予定



上: 競技中、自作のマシンの走りを見守る本田君(赤い帽子)
下: 「人間乗車」クラスで優勝した車を運転する五十嵐君



自作のスターリングエンジンを搭載した車両で、スピードとアイデアを競う「第6回スターリングテクノロジー」が本学を会場に昨年11月16日(土)開催された。中高校生のクラブや大学の研究室、社会人の同好会など全国から153チームが参加。本学での開催は初めてであったが、好評だったため、今年も11月8日(土)に本学で開催する運びとなっている。

当日、8時半の受付時間前には、手に手に自作のスターリングエンジン車両を持った参加者が詰めかけた。手続きを済ませると各々のチームは、参加車両の調整に余念がない。

競技は、①ノーマル(車体長さ600mm×幅280mm以下)、②ミニ(同長さ180mm×幅105mm×高さ90mm以下)、③人間乗車(同無制限)の各クラスで所定のコースを走る。

本学からは、機械工学科4年の本田晋也君がノーマルクラスに出場、一般の部・参加37チームのうち、12位の成績をおさめた。ちなみに同クラス参加車両37台のうち、完走したのは14台だけである。

「人間乗車」クラスは高度な技術力を要するため、出場した13チームのうち、規定の100mを完走できたのは6チームだけ。中には、走行車両の両側からバーナーを手にしたチームメートが、走りながらエンジンを暖めている光景も見られた。優勝したのは、神戸工業高校の交通工学サークル。ここ数年、上位の入賞を果たしているが、そのためには1年がかりで準備していると五十嵐隆将君(18歳)は語ってくれた。ちなみに同校は、本学から出場した本田君の出身校でもある。

当日は、大川理事長、神馬学長も熱心に観戦、「ものづくり」に励む若者たちにエールを送っていた。

工業技術博物館

『鍵と錠』 の特別展を開催

学芸員・講師 丹治 明



工業技術博物館では、平成14年度の特別展として「鍵と錠の歴史とメカニズム」の特別展を開催した。この展覧会は、工業技術の目的の一つが、安全社会の実現である。平成14年11月2日から11月30日を会期とし、当博物館の後援会の協賛、産業考古学会、株式会社日本ロックサイビス、美和ロック株式会、株式会社アルファの後援を得て開催した。

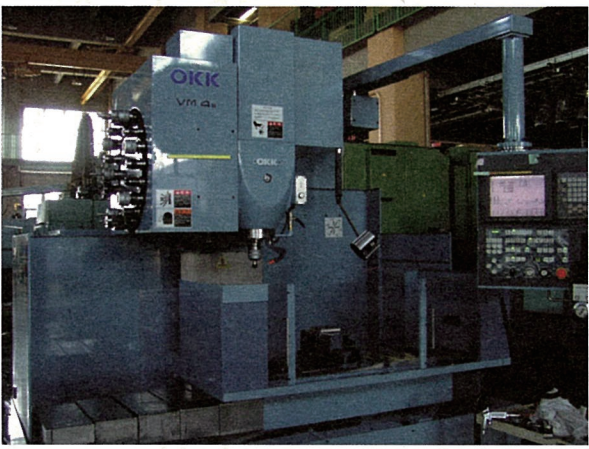
今回の特別展では、主に家屋の扉などに用いられる建築用の錠と鍵に着目して、その歴史と構造の例などを展示した。特に、(株)日本ロックサイビス・二上敏夫取締役会長所蔵の「錠と鍵のコレクション」の一部を借用・展示して、錠と鍵を構成する部品ひとつひとつに込められた機械技術者の緻密な技と情熱を感じてい

ただけるように展示した。アフリカ錠など古いものから、各種カードロック錠・バイオセンサー錠など新しいものまで広範囲な展示であり、さらに、後述の稲田淳夫氏所蔵の明治時代に製造された蔵錠の施錠・解錠の実演を行ったこともあって、来場者には非常に好評であった。

また、会期中の11月21日(木)には、学生会館のホールにて、講師に元警視庁刑事・防犯アドバイザーの稲田淳夫氏をお迎えし、演題「これからのホームセキュリティ・ドロボロの現況と防犯対策」として、特別講演会を開催した。稲田氏は、警視庁で40年近く刑事職を勤められ、「鍵と錠専門職刑事」に指定され、警部補に昇任、退職後は、錠前関連会社の防犯顧問として全国錠前業者の指導育成に当たり、防犯アドバイザーとして全国各地の防犯運動に参加されている方である。講演では、これらの経験をもとに、具体的な例を挙げながら、窃盗犯の現況を解説・分析し、それから導き出された防犯対策を具体的に理解しやすく、さらに楽しくお話を聞いた。最も身近で関心の高いホームセキュリティを対象としたため非常に盛会であった。

充実する施設・設備

VW4IIベーシック立形マシニングセンターなど



左:マシニングセンター 右:ミニSL線路 左下:情報棟



この度、補助金などで学内に導入、新設された設備について数点紹介する。機械工作センターには学内設備費で大阪機工製の「VW4IIベーシック立形マシニングセンター」が導入された。これは従来のマシニングセンターに比べ内部の各機構がグレードアップされ作業効率が上がっている。情報工学科には私立大学等経常費補助金特別補助(情報通信設備借入)で情報工学実験室に富士通のFWV-7000FL2、41台を中核とした「ハードウェア設計・開発教育用コンピュータシステム」が、また、同、画像工学実験室にはDELLのPrecision530、62台を中核とする「映像・音声・CG統合デジタル情報メディア応用実習システム」がそれぞれ導入された。これらは従来のシステムに比べ、ハードウェア、ソフトウェア共に飛躍的に性能の向上が図られている。さらに、工業技術博物館前庭には、新たに1周138メートルのミニトレインの線路が敷設された。イベント時には、動態保存されている英国製2100型2109号と共にミニSLに乗る楽しみも増えそうだ。(用度・管財課)



さいたま市立与野東中学校の来学者

小・中学生の見学

去る11月6日に宮代町立笠原小学校の児童6名が、生活科の体験学習の一環として本学を見学。先進的な施設やコンピュータ設備などに目を輝かせていた。11月22日にはさいたま市立与野東中学校2年生5名が来学。施設見学や学生との交流を通じて、本学のものづくりの姿勢を肌で体験した様子である。これからも、このような体験学習を積極的に受け入れていきたい。(教務課)

宮代町が誕生したのは、昭和30年7月20日、あと3年で、50年になります。しかし国、地方の財政状況は、大変厳しく、足腰の強い自治体で、望まれております。我が宮代町でも、景気低迷などを受け、地方税、地方交付税等をはじめ、収入確保が益々厳しさを増し、市町村合併問題が、急浮上しております。一方まちづくりにおいては、日本工業大学様をはじめ、関係各位の皆様のご理解とご協力により、この1年間だけでも、ITの分野では、町の公式ホームページにおいて、日本工業大学様から、結核予防事業功績での表彰。農業振興分野で、他の模範自治体として、山崎地区内にある「新しい村」事業に対し、農林省関東農政局長表彰等を受けるなど、神原町長のもと着実に宮代町のまちづくりが進展している最中での合併問題であります。小さくてもキラリと光る宮代町のまちづくりの灯りが、もっと大きく灯るよう期待している職員のひとりでありま。

宮代町役場の
ある職員より

院生の齊藤喬士君が、日本トライボロジー学会でベストプレゼンテーション賞を受賞



大学院システム工学専攻博士後期課程2年の齊藤喬士君(三宅研究室所属)が、このほど日本トライボロジー学会(摩擦)学会トライボロジー会議(2002年秋)仙台において、「境界潤滑下でDLC(ダイヤモンドライクカーボン)膜状に形成された低摩擦生成物のAFM(原子間力顕微鏡)による評価」の論文でベストプレゼンテーション賞を受賞した。

同君の論文は、自動車エンジンのバルブを開閉するカム・シムの接触部に、従来のカーボン膜に比べ剥離しづらく摩擦が少なくDLC膜を付加する事により、エンジンの低燃費化を考察したものである。今回の受賞は約1500件の発表論文の中からわずか3件だけが選ばれたものであり、その価値は大きい。

座長および研究発表
◆木村雅則助手(電気電子工学科) / 出張先「中国(10/4) / 目的「2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications」に参加
◆神力正宣教授(情報工学科) / 出張先「中国(10/4) / 目的「2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications」に参加
◆高瀬浩史助手(情報工学科) / 出張先「中国(10/4) / 目的「2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications」に参加
◆石崎克也助教授(共通系) / 出張先「フィンランド(10/13) / 目的「Jeusun大学における研究集会 Symposium on complex differential and functional equations in honor of Ilpo Laine's 60th birthday」において講演および「ネバリンナ理論」の応用について」の研究打合せ
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆星野坦之教授(システム工学科) / 出張先「米国(9/27) / 目的「デジタルプリンティングの国際会議NIP18」の出席と論文発表
◆渡辺康夫教授(電気電子工学科) / 出張先「中国(10/7) / 目的「情報理論・非線形理論に関する国際会議(ISTA-Nola)」における論文発表
◆波多野純教授(建築工学科) / 出張先「カナダ(10/11) / 目的「2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications」に参加
◆梅崎崇作教授(機械工学科) / 出張先「韓国(10/16) / 目的「Third International Conference on Materials Development and Performance」(第3回先端材料開発と特性に関する国際会議)での論文発表
◆伊藤庸一教授(建築工学科) / 出張先「中国(10/17) / 目的「中国国際シンポジウム」での論文発表・青島建築工科大学での講義
◆柳澤章教授(機械工学科) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆廣瀬治男教授(教務部) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

鈴木誠史教授が

勲三等叙勲



国サチューンセツ理工学研究所長として活躍した後、平成10年4月から客員研究員、郵政省通信総合研究所長などを歴任。
「MIT客員研究員としての1年間は自分にとって大きな財産(特別賞)」の称号も授与されている。

◆清島達郎教授(共通系) / 出張先「ポーランド(9/1) / 目的「国際学会 Conference on the Atomic Systems (CEPAS)」に出席 研究発表
◆森真作教授(電気電子工学科) / 出張先「中国(9/2) / 目的「2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications」(10/7-10/10)の準備
◆北久保茂講師(システム工学科) / 出張先「フランス・ギリシャ・イタリア(9/5-9/9) / 目的「第30回ヨーロッパ研修引率」
◆吉川寿子職員(学生部就職課) / 出張先「フランス・ギリシャ・イタリア(9/5-9/9) / 目的「第30回ヨーロッパ研修引率」

◆村川正夫教授(機械工学科) / 出張先「カナダ(9/8) / 目的「NITC」および「ICC」の出張講義
◆山岸高教授(留学生別科) / 出張先「中国(9/11-9/15) / 目的「牡丹江市富士日語学校理事長林氏からの招聘により、協定校の視察と現地日本語学校の見学、および今後の別科生募集の推進」
◆加藤実主事(留学生別科) / 出張先「中国(9/11-9/15) / 目的「牡丹江市富士日語学校理事長林氏からの招聘により、協定校の視察と現地日本語学校の見学、および今後の別科生募集の推進」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「中国(9/19) / 目的「第5回自然冷媒利用国際会議にて研究発表」
◆波多野純教授(建築工学科) / 出張先「中国(9/16) / 目的「第5回自然冷媒利用国際会議にて研究発表」
◆藤野充平教授(情報技術センター) / 出張先「ロシア(9/22-9/28) / 目的「Ninth International PHOENICS USER Conference」発表

◆星野坦之教授(システム工学科) / 出張先「米国(9/27) / 目的「デジタルプリンティングの国際会議NIP18」の出席と論文発表
◆渡辺康夫教授(電気電子工学科) / 出張先「中国(10/7) / 目的「情報理論・非線形理論に関する国際会議(ISTA-Nola)」における論文発表
◆波多野純教授(建築工学科) / 出張先「カナダ(10/11) / 目的「2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications」に参加
◆梅崎崇作教授(機械工学科) / 出張先「韓国(10/16) / 目的「Third International Conference on Materials Development and Performance」(第3回先端材料開発と特性に関する国際会議)での論文発表
◆伊藤庸一教授(建築工学科) / 出張先「中国(10/17) / 目的「中国国際シンポジウム」での論文発表・青島建築工科大学での講義
◆柳澤章教授(機械工学科) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆廣瀬治男教授(教務部) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

情報工学科の鈴木誠史教授が、昨年の叙勲に際し、勲三等旭日中級章の栄に浴した。
鈴木教授は昭和30年に東京工業大学を卒業後、郵政省電波研究所研究員を皮切りに、長年音声情報処理・音声通信分野の研究に従事し、その間、平成元年に埼玉大学工学部に移り、同大工学部長・

◆清島達郎教授(共通系) / 出張先「ポーランド(9/1) / 目的「国際学会 Conference on the Atomic Systems (CEPAS)」に出席 研究発表
◆森真作教授(電気電子工学科) / 出張先「中国(9/2) / 目的「2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications」(10/7-10/10)の準備
◆北久保茂講師(システム工学科) / 出張先「フランス・ギリシャ・イタリア(9/5-9/9) / 目的「第30回ヨーロッパ研修引率」
◆吉川寿子職員(学生部就職課) / 出張先「フランス・ギリシャ・イタリア(9/5-9/9) / 目的「第30回ヨーロッパ研修引率」

◆村川正夫教授(機械工学科) / 出張先「カナダ(9/8) / 目的「NITC」および「ICC」の出張講義
◆山岸高教授(留学生別科) / 出張先「中国(9/11-9/15) / 目的「牡丹江市富士日語学校理事長林氏からの招聘により、協定校の視察と現地日本語学校の見学、および今後の別科生募集の推進」
◆加藤実主事(留学生別科) / 出張先「中国(9/11-9/15) / 目的「牡丹江市富士日語学校理事長林氏からの招聘により、協定校の視察と現地日本語学校の見学、および今後の別科生募集の推進」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「中国(9/19) / 目的「第5回自然冷媒利用国際会議にて研究発表」
◆波多野純教授(建築工学科) / 出張先「中国(9/16) / 目的「第5回自然冷媒利用国際会議にて研究発表」
◆藤野充平教授(情報技術センター) / 出張先「ロシア(9/22-9/28) / 目的「Ninth International PHOENICS USER Conference」発表

◆星野坦之教授(システム工学科) / 出張先「米国(9/27) / 目的「デジタルプリンティングの国際会議NIP18」の出席と論文発表
◆渡辺康夫教授(電気電子工学科) / 出張先「中国(10/7) / 目的「情報理論・非線形理論に関する国際会議(ISTA-Nola)」における論文発表
◆波多野純教授(建築工学科) / 出張先「カナダ(10/11) / 目的「2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications」に参加
◆梅崎崇作教授(機械工学科) / 出張先「韓国(10/16) / 目的「Third International Conference on Materials Development and Performance」(第3回先端材料開発と特性に関する国際会議)での論文発表
◆伊藤庸一教授(建築工学科) / 出張先「中国(10/17) / 目的「中国国際シンポジウム」での論文発表・青島建築工科大学での講義
◆柳澤章教授(機械工学科) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆廣瀬治男教授(教務部) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

◆栗本収課長(教務部教務課) / 出張先「中国(10/23) / 目的「武漢・上海視察研修」
◆古閑伸裕教授(機械工学科) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆大場廣子教授(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆松本勇一郎課長(教務部入試室) / 出張先「タイ(10/25) / 目的「日本留学フェア」に参加
◆石川孝教授(情報工学科) / 出張先「サウジアラビア(10/25) / 目的「第2回サウディ技術カンファレンス」における基礎講演
◆野口裕之講師(先端材料技術研究センター) / 出張先「台湾(10/27) / 目的「2002年精密機械および自動車制御国際シンポジウム」(南台科技大学主催) 出席 講演

編集後記

2003年、羊年。明けましておめでとうございませう。私学を取り巻く状況は厳しく、そんな中でキラリとした個性輝く大学を目指し、新たな気持ちでスタートします。

我が国は、20世紀初頭四千万人だった総人口が21世紀初頭の現在、約3倍の一億二千七百万人と爆発的に増加しました。しかし、現在の出生率は1.36で、今後の人口増は見込めません。このことは18歳人口をターゲットとする大学にとって極めて大きな課題です。本学は建学の精神に則り、社会に貢献し続けるため、全職員一丸となり、改革を進め、対応していきたいと考えています。その一環として全学を挙げて取り組んできた「自己点検・評価」をまとめ、改革のためのプログラムを整理し、一つ一つ着実に実行していきたいと考えています。

(F)